

“人間と性”

一般社団法人“人間と性”教育研究協議会
〈性教協〉会報 No. 379 2023.1.25



発行：“人間と性”教育研究協議会/発行責任者：水野哲夫
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-7-16 初台/ハイツ1006号
<https://www.seikyokyo.org> Tel 03 (3379) 7556

視 点

性教協の魅力を伝えたい

昨年末父と死別しました。改めて私の65年間の人生を振り返ると、旧来の家父長制の家庭で、厳格な父のもとに育った幼少期、自らに自信が持てず悩みを抱えた思春期、はっきりと自分の意見を言えないまま他者に影響されて過ごした青年期がありました。その後、30代の時に出会った性教協は、それ以後の私の人生にとって最大のバックボーンとなっていきました。

私と性教協との出会いは、養護教諭として2校目となる小学校に勤務した33年前（1990年）、山口性教協の発足時に参加した“村瀬幸浩講演”が最初でした。それは子どもたちの実態を掘り所とする健康教育に取り組んでいた当時の私にとって、性の学びとの衝撃的な出会いの瞬間でした。その後、何十回、何百回？村瀬講演を聴いたことでしょうか。聴くたびに新たな認識と感動を呼び覚まされる学び。「村瀬ファイル」は、いまでも私にとって最大の財産の一つになっています。

山口性教協発足後しばらくは会員として例会やセミナーに参加していましたが、その後役員として企画に加わり、先輩からの声掛けもあって、何もわからず全国幹事を引き受けることとなり、より深く性教協の魅力に引き付けられていきました。

山口性教協の役員会は、自分の意見や考えを自分の言葉で語り合い、互いにどんな意見もまずは受け入れます。誰もが尊重された、対等・平等の関係性がそこにはありました。さらに、性教育の内容以外にも社会情勢や歴史観が話題になったり、日々の仕事上の悩みを相談し合ったり、趣味の話題にも発展したりと、自分自身が解放され、受け入れられていく安心感のある居場所でもありました。もちろん、そこには、

意見の相違や考え方の違いも生まれ、紆余曲折はありましたが、その中で、『人間（社会）と性』を考え、『性＝生』と学ぶことの大切さを実感し、自分自身の価値観が磨かれてきたのではないかと感じています。そして、全国の多くの仲間との交流は、私の世界をさらに広げてくれました。

2012年全国セミナー山口大会後、山口性教協の代表を引き受けてから10年、そろそろ次へバトンを引き継ぎたいと願いながら、私が性教協から学んだものを次の世代へつなぐ役割と、地道であっても着実にサークル活動を継続することを念頭に、歩みを進めていきたいと考えます。

昨年3月、養護教諭をリタイヤし、学校現場からは離れましたが、たまたま元の同僚から声がかかり、中高校生や保護者を対象とした性教育講演会の場をいただいています。改めて、これまでの学びを振り返ると共に、私自身が性教協で『性と生』を学ぶことで得た自分自身への信頼や自信、そして何よりも人とのつながりで成長できた実感を自分の言葉で語りたい。そして、今の子どもたちに、性を学ぶことの意味や人との関わりの中で成長していく楽しさを伝え、その子どもたちを支えている周りの大人へ、性教協の魅力を伝えていきたいと思っています。

常に「科学・人権・自立・共生」のキーワードを唱えながら…。



池岡 幸恵
（山口性教協代表）